

現場見学会

山口県立萩工業高等学校／建設工学科

建設業の未来に
夢を馳せて。

山口県建設業協会では、土木・建築分野を学ぶ高校生に建設業の魅力や役割を肌で感じてもらうため、平成2年から建設現場見学会を実施しています。今回は平成17年6月23日に行われた山口県立萩工業高等学校の現場見学会の様子を取材しました。



建設中の真綿川ダム

梅雨だといふのになかなか雨が降らず、真夏並の気温も観測されていた6月。建設工学科2、3年生、27名の皆さんは、学校から1時間半ほどバスに揺られ、まず宇部市川上にある真綿川治水ダム建設事業現場に訪れました。

成14年より着工したこのダムは、コンクリートではなく土で作られる「アースダム」と呼ばれるもので、本川側と支川側の2つのダムが建設されています。この日、本川側では底である基盤を固める作業が、支川側ではほぼ形が完成したダムの表面を保護する作業などが行われており、現場の方の説明を受けながら、2つのダムを移動して構造や作業の様子を見学しました。生徒の皆さんは、全く作業段階の違う2つのダムを見比べ、それぞれの箇所役割に適した土が使われているという話を興味深く聞きながら、しゃがみこんで土を触ったり、何度も踏みしめてその感触を確かめたりしていました。また周りを囲む土の壁をぐるりと見渡して「自分がダムの底に立っているのが、不思議な気持ちです」と感慨深く語る生徒さんもありました。



説明に聞き入る生徒たち

その後、常盤公園での昼食を終え向かったのが宇部小野田湾岸線の一部である厚東川新橋の建設現場。宇部小野田湾岸線は地域高規格道路（自動車専用道路）である「山口宇部小野田連絡道路」の重要路線として先行整備されているもので、宇部小野田間のアクセスのスピード化や渋滞の緩和、さらには企業立地や人口定住へ繋がることが期待されています。橋の長さは全長約500m。自動車専用路と歩道付き道路の2段からなるダブルデッキ構造になっており、今回は2階にあたる自動車専用道路で説明を受けました。地上約20mという高さからの景色に生徒達は初めてとまどい、吹きつける風に身を縮ませていましたが、最新の建設技術を駆使し省力化、長

寿命化をはかったという現場の話やその作業を見るうち、近代的な橋の魅力に引きつけられ、終わりの頃には背筋を伸ばして橋の上を歩く姿が見られました。

見学を終えた生徒達は「含水率など授業でちょうど勉強していることが、実際の現場でこんな風に役立つんだと分かりとてもいい体験ができました。」「人の手によつてこんなに大規模なものができるのかと驚いた。早く自分でも作ってみたい」とより一層建設業への興味を膨らませ



中村茂夫先生



建設中の厚東川新橋